



日越外交関係樹立 50 周年記念企画

講演会「社会主義ベトナムのオペラの世界～絡みあう芸術と政治～」

と き：2023 年 10 月 15 日(日)

15:20～17:35 (15 時開場)

ところ：キャンパスプラザ京都

4 階 第4 講義室

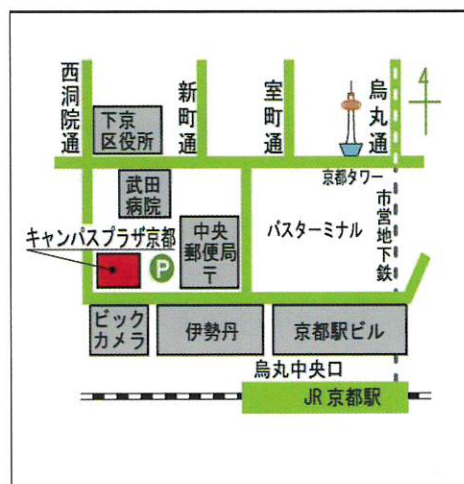
講師：加納遥香氏 (一橋大学特別研究員)

〔 開 催 趣 旨 〕

今年、日本ベトナム外交関係樹立 50 周年を迎えます。日本とベトナムの交流はあらゆる分野で大きく発展しています。日本とベトナムは国籍を超えて互いに激励し、連帯していく取り組みを一層広げていく重要な段階に至っています。オペラは 1590 年ごろのイタリア・フィレンツェに起源をもち、その後ヨーロッパからヨーロッパ外へと、それぞれの土地の政治や社会と密接に結びつきながら、広がりを見せてきました。1954 年以降、社会主義体制下のベトナムにおけるオペラの発達を通時的に読み解かれた加納遥香氏をお迎えし、「社会主義ベトナムのオペラの世界～絡みあう芸術と政治～」の講演会を開催することになりました。

入場無料

【会場アクセス】



主催：日本ベトナム友好協会京都支部

(〒604-0073 京都市中京区西夷川町 563 夷川ビル 201 号室国際環境整備機構気付)

後援：在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館、京都市国際交流協会、ジェトロ京都貿易情報センター、JICA関西、日本ベトナム文化交流プロジェクト、日本ベトナム友好協会

協賛：在京都ベトナム青年学生協会、日本ベトナム友好協会大阪府連合会、日本ベトナム友好協会兵庫県連合会、日本ベトナム友好協会奈良支部、日本ベトナム友好協会鉄道(西日本)支部

※参加ご希望の方は、お名前、ご住所、所属(団体・大学名など)を開催事務局(日本ベトナム友好協会京都支部)あてにメール(nvkyoto2018@outlook.jp)でお申し出ください。当日ご参加も歓迎です。



講演『社会主義ベトナムのオペラの世界～絡みあう芸術と政治～』

ドイモイ後の日越交流において、日本人指揮者のベトナムでの活躍やベトナムのオーケストラの日本公演など、クラシック音楽が存在感を見せています。なかでも今注目を集めているのが、日越外交関係樹立 50 周年を記念して共同制作が進められているオペラでしょう。16 世紀ヨーロッパに起源をもつオペラは、ベトナムと日本それぞれにおける歴史を経て、アジアに位置する両国の文化交流の媒体となっています。

ベトナムのオペラといったときに思い起こされるのは、フランス植民地時代にハノイやサイゴン（現ホーチミン市）に建設されたオペラハウスでしょうか。あるいは《コー・サオ》（1965 年初演、2012 年再演）や《赤い葉っぱ》（2016 年初演）などのベトナムのオリジナル作品が近年上演されていることをご存知の方もいるかもしれません。しかしながら、独立後から現在に至るまでの歴史はあまり知られていないといえるでしょう。

私が大学院生時代を通して取り組んできた研究は、社会主義体制下のベトナムにおけるオペラの歴史を一次資料を用いて明らかにし、国の文化政策との関係から読み解くというものでした。というのも、植民地支配から独立を果たして社会主義を採用したベトナムにおいて、オペラは国家の政治と密接に結びついた芸術として語られ、創られ、演じられてきたためです。ベトナムの音楽家たちはいかにオペラに向きあい、どのような芸術をつくりだしたのか、それにはどのような政治的機能があったのだろうか…。

本講演では、以上の問いに取り組んだ研究成果を元に、ベトナム内部の視点から描きだされるオペラの世界についてお話しします。オペラが日越交流の象徴の 1 つとなる年に、鑑賞とは異なる角度からベトナムのオペラを知り、ベトナムについての理解を深める機会となれば幸いです。

講演者プロフィール 加納 遥香（かのう・はるか）

一橋大学大学院社会学研究科特別研究員。2021 年に同研究科地球社会研究専攻博士後期課程を修了。博士（社会学）。専門はベトナム地域研究、音楽文化研究、グローバル・スタディーズ等。主な論文に「社会主義体制下のベトナムにおけるオペラ」（一橋大学博士論文、2021 年）、「社会主義体制下のベトナムにおける「音楽劇」の創出：国家建設とオペラ（1954－1965 年）」（『音楽学』第 68 巻第 1 号、2022 年）。



※日本プレミア公演 11 月 4 日（土）開演 14:00・開場 13:00 昭和女子大学 人見記念講堂

